

## 第 38 回庭野平和賞 贈呈理由

本年、第 38 回庭野平和賞は、あらゆる生命の保護や男女の倫理・平等の推進及び諸宗教指導者や社会活動団体との垣根のない対話への取り組みを通じた平和の構築における活動を称え、台湾の僧侶、昭慧(チャオフェイ)法師へ贈られる。法師は持続かつ現実的な平和の促進において、仏教精神に根ざして、臆することのないリーダーシップを発揮されているというのが、庭野平和賞委員会の見解であり、このことをもって慎んで法師の活動を評価するものである。

1957 年、ミャンマーのヤンゴン生まれの昭慧法師は、1965 年に家族とともに台湾に移住。1978 年に仏門に入る。学問生活に専念し玄奘大学において宗教学の教鞭を執っている。現在、同大学の教授であり、佛教弘誓學院の大学院研究科の学部長も務める。2004 年、玄奘大学に応用倫理研究センターを設立。動物の権利に関する立法を求めてロビー活動を展開する「Life Conservationist Association (LCA/自然保護協会)」の創設者でもある。文化討論会への目覚ましい貢献を評価され、第 48 回中国文学芸術賞を受賞。その後、2009 年、台湾国際仏教優秀女性賞、2012 年には台湾国内における社会運動に、パーソンオブザイヤー賞が授与された。また、著名なタイ仏教改革者スラック・シワラック師が設立した仏教者国際連帯会議 (INEB) の精神的指導者・後援者に、ダライ・ラマ法王とともに任命されている。昭慧法師は著書 31 冊以上、自然保護に関する数多くの原稿を含め、77 本を越える研究論文を発表している。

信仰に根ざしていること、という庭野平和賞の目的に沿って、庭野平和賞委員会は、昭慧法師自身及び自身の共同体や運動を強める手段としての、法師の仏教精神との関わり合いに注目するものである。仏教を単なる宗教というよりはむしろ深遠な哲学として考察していることが、法師の積極行動主義の基盤となっている。法師の社会運動への視点や参画は、仏教倫理研究に根ざした道徳研究や倫理的論説に裏打ちされている。さらに、他宗教の牧師や神父、司祭、修道士らと、長く困難な社会変革という道のりを歩みつつ、多様な社会的、さらには多様なイデオロギーの背景を持つ人々とも活動している。積極行動主義は自身の仏教信仰に動機付けされている一方で、法師は積極行動主義が、勝ち負けを超え、真に自我を超越する実践を可能にすると理解している。積極行動主義の流動的かつ変化していく状況を、苦悩から自我を解放するための仏道的手段と捉えている。庭野平和賞委員会は、法師自身の信仰が積極行動主義を動機付けし、そして積極行動主義が修行となり、それによって自身の信仰が高められていることに注目する。

有能な活動家である昭慧法師は、とりわけ男女平等や動物の権利擁護及び核エネルギーなど、これまで実に広範囲の課題に対する運動に成果を上げてこられた。

動物の権利擁護に関する法師の活動には、まさに「一切衆生を尊ぶ」仏教の教えの実践を促進する、台湾における「野生動物保育法」や「動物保護法」の法律制定に向けた取り組みが含まれている。また台湾での競馬賭博を禁止する運動を展開し、見事に議会を通過させた。この運動は、台湾国内での賭博禁止を訴える連合体を率いる法師の取り組みの一環である。台湾国内の経済的に恵まれない地域におけるカジノ建設に反対する運動を展開し、その反賭博運動は、2009年、澎湖島におけるカジノ建設を止める住民投票へと導いた。

男女平等に関する法師の取り組みには、文化的・構造的暴力に対して声を上げることも含まれる。2001年、法師は台湾仏教界において物議を醸した「八敬法(はつきょうほう)」(比丘尼にのみ適応される戒律で、常に比丘を敬い従わなければならないとされる)の廃止を求めた。法師はこうした戒律は、仏陀自身によって成文化されたものではなく、著しく女性差別する内容であると力説した。この局面によって、仏教の男女平等を目指す運動に国際的な注目を向けさせた。2007年には、「宗教文化と性の倫理国際会議」を開催し、国際的な研究者や宗教界、男女同権主義活動家から国際的に認知された。

昭慧法師は、環境保全や生態系保護、人権及び宗教と政治に関する問題に至るまで、数多くの原稿を執筆している。仏教の観点から果敢に発言していて、台湾の主要新聞各紙に記事を掲載している。

庭野平和賞委員会は、昭慧法師の困難に立ち向かう勇気や物議を醸す問題に対し発言する覚悟、そして、たとえ恐怖を抱こうとも、それを「人生最大の敵」と見なし、果敢に立ち向かう姿に注目する。心の真の平安は、ただ沈黙を守ったり、あるいは問題を無視することからではなく、むしろそのことに立ち向かうことによってこそ生まれるのだと、法師は認識している。真理や心の安寧のより深い段階に至るためには、表面的な調和や平穩の崩壊は往々にしてあるものという法師の見解を当委員会は評価する。

こうした理由などから、世界各地の著名な学者や宗教指導者によって構成される庭野平和賞委員会は、庭野平和財団と協力して、第38回庭野平和賞を台湾の昭慧法師に慎んで贈ることとする。

庭野平和賞委員会 委員長  
サラ・ジョセフ OBE